

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和7年1月8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103730
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホーム 笹貫の家
所在地	鹿児島県鹿児島市小松原一丁目1番2号 (電話) 099-268-2627
自己評価作成日	令和6年11月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームの裏手を鹿児島市の市電が行き来しており、「ゴトン、ゴトン」と市電の走る音が心地よく聞こえる場所にあるグループホームです。鹿児島市南部のほどよい街中にあり、市電の他に公共交通機関も充実しており、ご家族様等の面会には便利な場所だと思います。『あなたが今できることを大切に。』職員他『地域や家族と共に支えし、』『笑顔の絶えない/ゆっくりと安らげるグループホームを』との理念を掲げて、利用者様の生活ペースを大切に、お一人おひとりの想いや時間に寄り添い暮らしを共にさせていただいています。コロナウイルス感染症が5類となり、少しずつではありますが、コロナ禍以前のように定期的な外出や、皆様に喜んでいただける季節ごとのイベント等を計画して行えるよう取り組んでいます。加入している町内会の清掃活動や防犯パトロール活動に定期的に参加させていただき、地域の方々とも良き交流をさせていただいていると思います。健康管理・医療的な支援については、利用者様が希望される医療機関や協力医療機関への通院や訪問診療で支援しており、医療連携している訪問看護ステーション様に日頃から利用者様の健康状態を情報共有や相談できる体制があることで、利用者様の健康管理と健康についての安心に繋がれるよう努めています。また協力歯科医院を通院や歯科訪問診療をして、口腔状態の管理や口腔ケアの助言指導を頂くことで、『いつまでも美味しく食事がとれて、元気で過ごせます。』の理念を實踐できるよう取り組んでいます。毎月「笹貫だより」(ホームのお便り)をご家族様等にお送りして、ホームでの暮らしの様子や予定などをお伝えし、ご家族様等に本人様やホームのことの情報を共有していただいています。ホーム近隣に公園やお店、レストランや郵便局などがあり、地域の社会資源にも恵まれた環境の中にあり、晴れの日は心地よい陽光が差し込み、時間の流れがゆっくりと感じられるグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は公共交通機関が充実し、医療機関・コンビニエンスストア・多種の商業施設・公園等があり、利便性に恵まれた環境である。
- ・町内会に加入し回覧板で地域情報を得ながら、毎月夜間の防犯パトロール活動に参加したり、地域まち美化委員に登録し町内会の方々と清掃活動に参加する等、日常的に地域住民と交流している。
- ・コロナ感染症が5類移行後、面会や外出を緩和し、対面面会やコスモス見物は家族も一緒に行き、散策を楽しめる支援をしている。雨天時は、家族も一緒に弁当で昼食会を実施し楽しいひと時を過ごす等、馴染みの人との関係継続の支援をしている。
- ・かかりつけ医からの定期的な訪問診療や職員同伴の定期受診支援と系列の訪問看護ステーションとの24時間医療連携体制や週1回の訪問看護で健康管理し、適切な医療を受けられるよう支援している。
- ・管理者や職員は利用者が自分らしく穏やかな毎日を過ごせるよう優しく声かけし寄り添う支援をし、家庭的な雰囲気がホーム内に溢れ、家族としてもストレス軽減になっていると感じている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼後に勤務者全員で理念唱和を実施し、理念を意識付けできることで、ケアの実践ができるよう取り組んでいる。また一年に一度、事業所理念を振り返り、理念の実践ができていないかを管理者と職員は見直しを含めて協議し、理念共有に取り組んでいる。	理念をホールや事務所入口に掲示し、パンフレットにも掲載している、毎日の朝礼後、職員で理念を唱和している。年末に理念の振り返りとケア実践ができていないかを研修している。各職員は文書で振り返り次年度の目標設定し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	地域の町内会に加入し、町内会主催の季節の催し事に利用者と共に参加させていただいたり、夜間の防犯パトロール活動の一員として、月1回参加し活動している。また地域まち美化委員会にも登録させていただき、町内会の方々の清掃活動等に参加交流させていただき、日常的に交流している。	町内会に加入し回覧板で地域情報を得ている。地域の夜間防犯パトロールに毎月参加したり、年2回まち美化委員として清掃活動やゴミステーションの見守り活動に参加している。散歩や買い物でも日常的に挨拶交流し、地域からの差し入れもある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進活動の場を活用して、グループホームでの取り組みや実践を発信したり、毎月のホーム便りで日常の様子などを掲載して町内会会長様や民生委員、管轄の地域包括支援センターに配布して、認知症の人の理解や支援方法等を地域の方々に向けて生かすことに努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨今のコロナ禍で、感染状況を鑑みながら事業所内での会議開催できたり、止む無く会議中止時は書面開催とし、運営状況等の使用を作成し、地域代表者様や民生委員様、地域包括支援センター様、家族様に送付して、事業所の運営状況や近況の情報共有を図り、電話等でご意見をいただき、サービス向上に活かせるよう取り組んでいる。	会議は対面と書面で定期的に開催し、事業所の運営状況や近況を報告し情報を共有している。運営推進会議の委員や家族全員にポストインや郵送し電話等で意見を聞き、サービス向上に活かすようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	福祉事務所の担当者様へ連絡することが多く、個々の利用者の医療機関受診状況や健康状態、生活支援等の連携をしている。管轄の地域包括支援センター様とは事業所の実情等について、相談や連携を図り、必要に応じて市の介護保険課等に相談連絡をし、日常的に協力関係が築けるよう取り組んでいる。	行政担当者とは窓口に出向いたり、電話やメール等で相談し助言を貰っている。福祉担当者とは訪問時や電話で報告し情報共有する等、協力関係を築いている。介護相談員の受け入れや市主催の研修にも対面で参加し、職員に伝達し共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	代表者及び管理者や全ての職員は、身体拘束について正しく理解し、身体拘束をしないケアの実践に日頃から努めている。身体拘束が及ぼす弊害等、定期的な内部研修を行い、全職員で学びを深め、月1回の職員ミーティングにおいて、センサー使用状況、施錠や車椅子の使用についてを見直しと目的の再確認、改善に向けての取り組みが出来るよう努めている。	年4回身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束について正しく理解し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。内部研修も年3回資料を用いて権利擁護に基づいた関わり方や事例を通してスピーチロックや言葉かけ等学んでいる。日中の玄関施錠はせず外出しそうなときは、状況により一緒に散歩している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と併せて定期的な内部研修で、高齢者虐待について学びを深め、月々の職員ミーティング内で虐待につながるような事例の有無を協議し、管理者や職員は日頃から虐待防止についての意識を持ち従事している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期的な内部研修で、権利擁護に関するテーマで学びを深めている。日常自立支援事業対象の利用者がおり、活用していただきながらの支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の際は、懇切丁寧を心がけて、十分な説明と理解が得られるようにし、利用者や家族の不安や疑問点をお聞きして適切な回答と安心していただけるよう努めている。また利用中に起こりうる様々なリスクについても説明文書を用意して予めご説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>いつでも気兼ねなくご意見やご相談ができるように努めている。電話や面会時にお受けしており、管理者や職員から現在の困りごと等をお尋ねして、頂いたご意見等を運営に反映できるように取り組んでいる。運営推進会議にも参加していただき、ご意見等を話していただく機会を設けている。</p>	<p>利用者や家族とはいつでも気兼ねなく意見や相談ができるように努めている。利用者の思いは日々の関わりの中で聞き、家族からは運営推進会議や手紙・面会時・電話等で利用者の状況を報告し、毎月の便りで写真や行事予定等を記載し郵送して、意見・要望を聞いて支援している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月々の職員ミーティング時を中心に、管理者は職員から意見を伺う機会を設け、その意見を管理者経由で代表者に伝えられるようにしている。また日頃から管理者に些細な事でも相談や意見を伝えられる雰囲気や環境作りに努めて、相互のコミュニケーションを図りながら意見を運営に反映できるよう取り組んでいる。</p>	<p>管理者は毎月全体ミーティングや日々の関わりの中で管理者から職員に声かけする等、意見や提案を言える環境作りをしている。相談には管理者が対応し出された意見は代表者に報告し、備品購入や食後30分の休憩時間も確保する等、反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は管理者より、実績や勤務状況等の報告を受け、職員が向上心を持って働けるような研修企画や案内を管理者経由で発信し、職場環境や条件の整備に努めている。介護支援専門員試験合格者や勤務功労者への表彰も行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は事業所に従事する、管理者や職員一人ひとりの状況を把握し、法人内外で行われる研修の発信をし、受ける機会を確保して、それぞれに合った研修に参加できることで、働きながらスキルアップにつながるトレーニングを進めている。実務者研修も法人内で行い、スキルアップに努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>毎月行われる法人内のグループホーム管理者会議にて、管理者同士は情報交換等の交流を図ったり、法人内で行われる研修参加や他事業所への応援助勢の機会に、相互の職員間で意見交換等の交流ができる機会を設けて、スキルアップやサービスの質向上につなげられる取り組みを実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する段階で、本人様の現段階や先々についての困りごとや不安・要望を把握して、本人様が安心してサービス利用するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する段階で、家族様等が現段階や先々のことでの困りごとや不安・要望を把握して、本人様やご家族様が安心してサービス利用ができるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始段階で、その時にまず必要とされている支援を話し合い見極めて、居心地よく過ごしていただけるように、他のサービスも含めて柔軟な対応に努められるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、パーソンセンタードケアの視点に立ち、意識を持てるよう努め、グループホームでの暮らしを共にさせていただく為に、良好な関係性を築け、本人様の安心と尊厳が護られる暮らしが送れるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人様と家族様の関係を正しく理解して、お互いの絆を大切にしながら、理念の通りに本人様を家族様と共に支援していけるよう、常日頃から取り組めるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症が5類移行し、感染対策は行いながら面会や外出などを緩和しながら馴染みのある人との面会や場所への外出をしていただいている。また日頃から電話をかけたり、手紙等を送っていただいたり、本人様にとって関係性を大切にできるよう、職員は正しく理解して支援できるよう努めている。	対面面会は予約制で30分の時間制限はあるが馴染みの人との交流を大切にしている。電話や手紙の取次ぎ支援やスマホで自由に交流している。買い物支援やコスモス畑に出かけている。家族の協力で馴染みの美容室に出かけたり、帰宅等、馴染みの人や場所との関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者様の性格や利用者様同士の関係性や相性等を理解把握して、利用者様同士が談笑したり、レク活動や生活リハの家事等を通してコミュニケーションを図り、相互に交流をしながら支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、その利用者様家族からご連絡を頂いた際は、相互の近況を話したり、その利用者様家族の知人様の在宅介護についての相談をお受けしたり、できる範囲内でのフォローを行ったりと、関係性を大切にできるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常をどのように過ごしたいか、本人様から暮らし方の希望や意向を伺いながら、その思いに添えられるように努めている。困難な時は本人本位に検討できるよう取り組んでいる。	日常の関わりの中で夕方や入浴時・夜勤帯等で思いや意向を聞き把握に努めている。困難な場合、表情や声掛けでの反応、声のトーン等の変化を家族に状況報告し意見を参考に、職員で意見交換し本人本意に検討し寄り添う支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしや生活歴、本人様の人生史を含めて、利用開始時やその時々、本人様や家族様から伺いながら把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送りや、一人ひとりの個別記録等を職員全員で情報共有して、その人の心身状態や現状の有する力等の把握に努めている。個別ケア記録や個々のバイタル表、ケース記録、また定期的なケアカンファレンス時に、職員間で協力して取り組んでいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画では、本人様やご家族のご希望やご要望を基に話し合い、ニーズに添えるような計画の反映をしている。また定期的なカンファレンスを開き、モニタリングを中心にして介護計画の見直しと作成、それを実施できるよう取り組んでいる。	本人や家族の意見や希望を基に、主治医・訪問看護師・必要時は薬剤師の助言をもらい、職員の意見を参考に趣味活動も取り入れて介護計画を作成している。モニタリングは毎月行い、見直しは6ヶ月で実施している。状況変化時はその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者様ごとに、個別のケース記録、食事水分摂取／排泄等記録、バイタル表を作成し、利用者様の中で心身状態の変化が著しい場合は詳細を記録できるよう、独自の24時間シート記録を作成している。その記録を職員間で情報共有しながら、ケアの実践や介護計画の見直しに活かせるよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様の状況変化であったり、ニーズ等の変更には柔軟に対応ができるよう努めている。その際は職員間でケアカンファレンスを開催し、意見を出し合っどどのような支援ができるかを協議して提供しているように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、町内会が主催する夏祭りの地域行事に参加したり、近隣のお店に買い物に出かけたり、公園まで散歩をして気分転換を図ったり、暮らしが楽しめるような支援に努めている。公共交通機関も充実しているので、機会をみて活用できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に、本人様及び家族様に希望するかかりつけ医をお尋ねし、希望するかかりつけ医を受診できるようにしている。希望が無い場合は、本人様の既往・現病や心身状態を確認した上で、本人様や家族様と話し合い、かかりつけ医を決めて適切な医療を受けられるよう支援している。	契約時に希望するかかりつけ医を支援している。2週に1回の在宅訪問診療と協力医療機関への定期受診を職員同伴で行っている。訪問看護ステーションと医療連携体制が整っており、週1回の訪問看護で健康チェックを行い適切な医療を受けられるよう支援している。歯科医の月1回の往診や他科受診は基本職員同伴であるが時々家族同伴で支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携している訪問看護ステーションに、その方の心身状態変化があった際は、訪問看護師に相談して早期受診につなげられるような助言やフォローを頂き、適切な受診や看護を受けられるようにしている。週1回は医療連携で看護師訪問があるので、その際に情報提供して適切な助言等を受けられるようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者様が入院になった場合は、医療機関側の相談員様とこまめに連絡を図りながら、必要な場合は入院先の医療期間に赴き、入院中の状態を教えていただいたり、院内カンファ出席や本人様と面会をして、できるだけ早く退院ができるよう、家族様とも連携を行いながらの関係作りや入退院支援ができるよう努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に、重度化や終末期に関する当事業所としての指針をご説明している。また利用途中にも定期的にご意向を確認できるよう努め、重度化や終末期に向けた相互の方針と共有ができるよう取り組んでいる。また、かかりつけ医より終末期にあたるとの所見の場合は、家族様等と話し合いをこまめに行い、事業所としてできる事、できない事を十分に説明し、支援ができるよう取り組んでいる。</p>	<p>入居契約時にマニュアルに基づき説明し同意書を貰っている。状態変化時は管理者からその都度説明し、重度化した場合、主治医から家族に状態や方針の説明と医療機関・施設等の提案後、家族の意思確認している。看取り期は主治医・訪問看護・職員・家族で協力しチームで支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>避難訓練時に時間を設けて、応急手当や初期対応の訓練を救急救命士より受けたり、医療連携している訪問看護ステーションより指導を受けて、実践力を身に付けられるよう努めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に火災想定や地震風水害想定での避難訓練を行い、避難できる方法を学んでいる。運営推進会議を活用して地域からも協力が得られるように働きかけている。</p>	<p>年3回昼夜間想定で火災想定2回内1回は消防署立会で通報訓練・避難訓練・消火までの総合訓練を行い、自主訓練では通報・避難誘導等、地震風水害想定での避難訓練も実施している。非常口に待機し、避難場所は近隣の広場となっている。防災機器の点検は業者依頼で年2回実施している。緊急連絡網に町内会長を記載し協力が得られるようになっていくが近隣住民の協力を得られるよう働きかけていく計画である。備蓄は水・ご飯・菓子・缶詰・レトルト等の食料品とカセットコンロ・懐中電灯など準備し、不足分はローリングストックし事業継続計画（BCP）は各事業所毎にある</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>職員ミーティングの機会や常日頃から、利用者様に対しての言葉かけや関わり方、接遇等について、人格を尊重し恥ずかしい思いをさせないことや、誇りやプライバシーを損ねない心ある対応ができるよう全員で取り組み、不適切なケアをなくせるよう努めている。</p>	<p>年1回権利擁護・接遇・個人情報保護について学び、ミーティングや常日頃から誇りやプライバシーを損ねない対応に取り組んでいる。排泄や入浴時は声のトーンやドアの開閉、立ち位置など考慮し羞恥心に配慮した対応をし、入室時はノック、苗字でさん付けで呼んでいる。衣類等自己決定できるよう家族からの情報を活用し選択肢を準備している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日頃の生活の中で、選択肢を提供して希望や自己決定ができる場面を作り出せるように心がけている。例えば食べたい物や買い物や出かけたい所など、その時の希望を伺い添えるような支援ができるよう取り組んでいる。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人様本位にその人らしく過ごしていただけるよう、なるべくお一人おひとりの生活ペースを大切に、思い思いに過ごせるように、希望に沿って支援ができるようにしている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>その日に着たい服を本人様に選んでもらったり、髪型の整容時は鏡の前で好きなように整えられるよう見守りし、2カ月に1度訪問カットの美容師を招いてヘアカットしてもらったりと、身だしなみやおしゃれができるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所やカウンターにて利用者様と共に料理に使う食材の下ごしらえを準備することや、食後の片付けや食器洗いなどを一緒に取り組んで、食事を楽しむことができる支援に取り組んでいる。献立も楽しめるようなものとなるよう努めている。	栄養士資格の有る計画作成担当者が希望を取り入れ献立表を作成している。食形態は利用者に応じて提供している。行事食のおせちや敬老会は祝い弁当・誕生会には寿司やケーキを・クリスマス会ではフライドチキンを準備して楽しく食べるよう工夫している。味見・片付け等、職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士資格のある職員が内容をバランス良く考えて献立作成している。お一人ずつの食事量や水分量を把握して記録しており、その人に合った食器や湯呑の選定に配慮したり、食事習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は利用者様の口腔状態を把握し、毎食後に本人の力に応じた口腔ケアを実践している。義歯を使用している方は、就寝前に義歯を預り洗浄剤できれいにし、口臭予防等に取り組んでいる。協力歯科医院があり、口腔状態の健康管理をしていただき、定期的な歯科受診支援とお口の健康に努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人ずつの排泄パターンを把握できる記録をとり、できるだけトイレでスッキリ排泄できるように職員全員で取り組み、失敗やオムツの使用頻度を減らせるように取り組んでいる。	個々の排泄パターンを把握し、時間帯で声のトーンに配慮し、トイレでの排泄支援をしている。排泄用品はおむつやリハビリパンツにパット等、利用者に応じて対応し、夜間はポータブルトイレ使用もある。パット使用量の減少やリハビリパンツから綿パンツに変更している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が心身に及ぼす影響や、その原因を職員は理解しており、繊維の多い食材を使った献立や、乳製品をとっていただいたり、歩くことをはじめ、体を動かせる運動をレク活動に取り入れ、なるべく薬を使用しないで生活上の工夫で便秘予防ができるように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴時間や入浴方法など、ゆっくり気持ちよく入浴ができるよう配慮して、入浴が楽しめるようにしている。また入浴剤を使用して少しでもお風呂の時間が楽しめる入浴支援を行っている。	週2回午前中に利用者の状況に応じて浴槽やシャワー浴、足浴で保清に努めている。入浴剤で楽しめるように工夫し、入浴後は化粧水や保湿クリームを使用している。入浴拒否がある場合、声掛けの工夫や職員交代など無理強いせず翌日支援したり、全身や部分浴・足浴等の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人ずつの睡眠時間や睡眠スタイルを把握して、居室の空調や照明に配慮しながら眠れるよう支援している。夜は寝つき良くいただく為に、ホットミルクやホットココア等の提供をしている。日中でも昼寝の生活習慣がある方には、食後短時間の昼寝をしていただいたり、気持ち良い睡眠支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方される内服薬について、受診内容と処方された内服薬についての目的や用法等の周知理解を図り、配薬に求められる薬剤師にも薬について分からない事があれば随時相談や助言をいただきながら、服薬支援と症状の変化の確認に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人ずつの生活ペースを把握して、その方ができる家事等の役割を担っていただいたり、好きな物やその日その日の楽しみごとの支援を行うことで、気分転換が図れるように取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ感染症が5類移行し、制限していた外出等を緩和して、外出や外食、お墓参り、親戚や友人等へ会いに出かけること、ご家族と共に出かけられることを、家族様等の協力を得て支援している。近隣の公園やお店等、またドライブ等では、本人が希望すれば一緒に戸外へ出かけられるように支援できている。	年間行事計画を作成し、制限していた外出など緩和し近隣公園までの散歩や個別の買物支援やドライブ、家族参加でコスモス見物に出かけている。家族も一緒にホームでお弁当の昼食会で楽しいひとときも過ごしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持すること、お金を使うことの大切さを職員は理解しており、少額を所持していただき、買い物を希望される方がいらっしゃれば、近隣のコンビニエンスストアやお店等で買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	一部の利用者様で携帯電話を持っている方は、見守りの下でかけたい時に電話をかけて会話を楽しまれている。本人様が電話したい時に電話を家族様にかけたり、かかってきた電話を取次ぎし、電話を通じて会話ややり取りを楽しめるよう支援している。暑中見舞いや年賀状等が届いたら、お返事ができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアは快適に過ごせる空調調整を行いながら、証明も不快にならない程度で天気の良い日は自然光が入るよう配慮している。テレビの音量の調整、不快な生活音、トイレ等の臭いなど、環境整備もこまめに調整しながら、季節ごとに定期的に季節を感じられるような壁面作りに利用者様にも参加していただきながら制作や壁面作りに取り組んでいる。	フロアは加湿器付き空気清浄機を設置し、エアコンで調整し、自然光にも配慮する等、環境整備している。メダカやグッピーの水槽もあり季節の花が飾られ、壁面にはぬりえ等がある。テレビやソファ・椅子があり、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様相互の関係性や状況に配慮したお席作りをして、利用者様同士が思い思いに過ごせるような工夫をしている。またソファでくつろいでいたり、メダカ水槽や観葉植物を置いて、癒しを取り入れながら過ごせるような共有空間づくりに取り組んでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居段階で、本人様にとって大切にされている物や馴染みある物をできるだけ持ち込んでもらえるようにしている。また本人様の居室は、居心地よく過ごせられるように家族様にも協力をいただきながら工夫している。	居室入口に表札が有りベッド・ダンス・洗面台・エアコンを設置し、ナースコールもある。寝具類は持ち込みで、衣装ケース・ダンス・仏壇・位牌・家族写真・化粧品等があり、新聞を読んだり、自分らしく過ごせるよう工夫している。車椅子やポータブルトイレもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前には表札を設置したり、トイレには多角的に見えるよう「お便所」の貼紙を貼付し、浴室前には「湯」の暖簾や「お風呂場」の貼紙を設置したりと、一人ひとりの「できること」「わかること」が活かせるよう可視化して、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない